

# 等躬は東北の情報通でした。

## 先人をしるす

さがら とうきゆう

### 相楽等躬 ②

等躬は、江戸で俳諧サロン(俳諧をよむための場)に出入りをし、そこで芭蕉をはじめ、多くの俳人達と交遊していたといひます。

問屋業を営むかたわら、旅人に旅籠屋を紹介し、馬の継立をするなど旅の全般を取り仕切る宿駅の長であつたとも伝えられています。◇継立・宿ごとに人馬をかえて送ること。◇旅籠：旅人を宿泊させ、食事つきの宿

須賀川市

# 芭蕉記念館

かわら版

第5号

平成29年5月



相楽家は「問屋業」を家業として日本各地の商品を仲介していたため全国に知り合いが多かつた。

等躬は、須賀川の在り荷主、問屋でしたので、江戸の米・油・綿・木綿などをあつかう諸色問屋の「客」となり、江戸に出て、しばらくとどまることもありました。

物語ボックス(相楽等躬)より

## 俳句を あじわう

早乙女：稲の苗を田んぼに植える女性  
白河の関をこえると、早乙女たちが田植うたを歌っていた。みちのくで初めて触れた風流は素朴(そぼく)な田植うたであつたよ。

ふうりゆう

風流の

「初や」で切れている。

「五・七・五」だけでなく、一七

初やおくの

田植うた

古芭蕉

文字で意識し、切るところを変えるとき、また違った風景がみえてきます。

栗の花は地味で目立たない。そんな栗の木かげで生活している主人の手柄を表しているようで、心ひかれます。軒の栗：のきのくり

世の人の  
見付ぬ花や

芭蕉から見た  
栗の花の説明。

軒の栗

古芭蕉

〇〇やと切れ字を入れて、いったんここで意味がぎれます。切れ字(転換、疑問、反語、命令、驚きなど感動をこめて使う言葉)

「かさね」とは、花で言うならば、八重撫子の名にピッタリ合うのでしよう。

かさねとは

人名がかわいい子をナデシコによく

八重撫子の  
名成べし

古芭蕉

たとえます。また、人の名前をいれるとユニークな俳句ができます。母や父の日、誕生日などにおくる句によんでみるのもいいですね。



# 俳句ポスト表彰式が執り行われました



平成二十八年年度俳句ポスト表彰式  
受賞作品

- 牡丹賞** 少年に戻る一夜や松明あかし 渡辺 圭子
- ぼたん賞** せみの声ひかりのおちていく 西村 怜太郎
- 赤松賞** 前向かせ後ろを向かせ初浴衣 関根 邦洋 (小六)
- あかまつ賞** 長沼小山にかこまれ夏の顔 山口 京桜(小五)
- 翡翠賞** 色褪せし田善の画や秋深し 鹿目 勘六
- かわせみ賞** 稲刈つて少しさびしい田んぼ道 野崎 聖奈(中三)

## 館内の展示

須賀川の俳人や須賀川ゆかりの俳人の花に因んだ資料や花にちなんだ資料や芭蕉が「おくのほそ道」の旅でよんだ花をしようかいています。

## すかがわ花の歳時記

須賀川の俳人や須賀川ゆかりの俳人の花に因んだ資料や芭蕉が「おくのほそ道」の旅でよんだ花を紹介しています。



期 間 平成29年4月13日(木)～5月31日(水)  
開館時間 午前9時～午後5時  
入館料 無料

## 桔槔を支えた俳人展

期 間 平成二十九年四月二十日(木)～五月三十一日(水)  
桔槔「創刊一〇〇号」を記念し、桔槔を支えた俳人らの花鳥風月を題材にした作品と創刊号から現在までの節目にあたる俳誌「桔槔」を紹介しています。



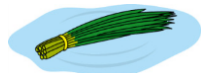
桔槔「創刊一〇〇号」を記念し、桔槔を支えた俳人らの作品と創刊号から現在までの節目にあたる俳誌「桔槔」を紹介しています。また表紙は、生活雑誌「暮らしの手帖」創刊者・花森安治や田代素魁など著名な作家が手掛けているのもあり、存在感を感じさせてくれます。

## 季の風物詩



鯉(カツオ)

〈目には青葉(あおば)山ほととぎす初鯉(素堂)「勝つ魚」に通じることから、江戸では縁起物としてあつかわれました。その上食べると75日長生きするとか。



菖蒲湯

ショウブの葉をいれてわかすお風呂。ショウブには薬草としての効能があり、この湯に入れば病にかからない、といわれていました。

## おもしろい季語

蛙の目借り時 蛙の目を見るか、ついうとうとしてしまふことがあります。それは、蛙が人の目を借りるためだそうです。温んだ水からのぞく蛙の目を見ると、なんだか眠たくなる気がしますよね。



黄門さま印ろうさがす目借時 博子 (新日本大歳時記 講談社所収)

ぼうたん(牡丹)・山開き・虹  
お花畑・短夜・梅雨・屋敷・あまがえる・夏のちよう・麦秋・莓ミルク・梅干し・母の日・父の日



## 投句募集

俳句(賞)記念品、作品集  
選句会・発表年二回

## HAIKU

飛びこんだは一匹? それとも複数?  
あなたのイメージは?どっちかな。

— 古池や蛙飛びこむ水の音 —

The ancient pond a frog leaps in the sound of the water  
(ドナルド・キーン訳)

Old pond frogs jumped in sound of water  
小泉八雲訳(ラフカディオ・ハーン)

## 言の葉

5月(皐月・さつき)  
梅雨前のカラツとしたすこしやすい月です。「早苗月」「田草月」「菖蒲月」「雨月」「月不見月」とも。  
◆5月29日はこんにやくの日。5(こん)2(に)やくの語呂あわせ。芭蕉の好物でもあります。

【須賀川市芭蕉記念館から版第5号】をお届けします。  
「おくのほそ道」や街道をたどる旅の人が全国のあちこちからおとずれています。それも徒歩や自転車です。  
須賀川にはいつて初めて触れた風景はなんだったのでしょうか。

## 芭蕉くイズ ④

- 芭蕉が須賀川についていたのはいつ?今の暦  
① 6月9日 ② 5月9日 ③ 7月14日
- 芭蕉がかぶっていたのはどれかな?  
① 三角巾 ② 宗匠頭巾 ③ 三度笠
- 芭蕉は俳号ですが、由来の植物はなに?  
① 栗の木 ② パナナの木 ③ 桃の木
- 芭蕉は何回旅に行ったのかな?  
① 5回 ② 7回 ③ 12回
- 空いているところには何がはいるかな?  
よくみれば □ さく垣かな  
① 白牡丹 ② なすな花 ③ ゆりの花

初級編

## 豆知識

芭蕉が「おくのほそ道」に旅立った5月16日は『旅の日』と日本旅のペンクラブが制定しました。「旅の心」を大切にす日です。

